



メチエ語の接辞-CHΘIの機能（西光義弘教授還暦記念号）

桐生，和幸

(Citation)

神戸言語学論叢, 5:79-91

(Issue Date)

2007-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81001526>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81001526>



メチェ語の接辞-CHƏI の機能*

桐生和幸

美作大学

1.) はじめに

本論文は、チベット・ビルマ系言語であるメチェ語の接辞 -chəi の用法について論じる。この接辞は、いくつかの点で、大変興味深い機能を持つ。本稿は、まず、メチェ語の言語系統的な概略を述べ、引き続き、-chəi の機能について、筆者のフィールドワークに基づくデータから、二つの機能について整理し分析する。

1.1.) メチェ語の概要

メチェ語は、ネパール東部のジャパ郡で話されているチベット・ビルマ系言語（以下 TB 言語）である。TB 言語内の位置づけとしては、東北インドで話されているボド族のボド語（Bodo, Baro, Boro）と同系言語であることが分かっている。メチェという呼称は、ネパール内での呼称であり、メチェ語での自称は「ボド[bəɔ]

」であり、文化的、言語的に東北インドのボド族と起源を同じにすると考えられる。¹ また、著者の調査では、メチェ語はインド・アッサム州のボド語とは相互理解可能であるが、発音、語彙、文法の点で異なる部分が見られる。しかし、アッサムの西側の西ベンガル州北部で話されているボド語とは、語彙面での差は見られるものの、発音、文法の点ではかなり似ていることが確認されている。²

メチェ語の話者人口は、2002 年のネパール人口統計によると 3,301 名とあり、近親のボド族がインドにおいて 60 万以上の人口であるのと比べ、かなり少数であるといえる。著者の調査では、ジャパ郡におけるメチェ語は、いくつかの村落において子供がメチェ語を話さず、国語としてのネパール語のみを話す状況が見られ、地元住民からも、将来のメチェ語の存亡が危惧されている。

メチェ語は、基本語順が SOV 型の主要部後行型の言語である。形態的には膠着型であり、格は主格対格型である。

次節では、メチェ語のテンス・アスペクトについてまとめ、第 3 節では接辞 -chəi の 1 次的用法をまとめ、第 4 節ではディスコースマーカーとしての用法をまとめる。第 5 節はまとめである。

2. メチェ語のテンス・アスペクト

メチェ語は、他の多くの言語同様、動詞にテンス・アスペクト的要素が膠着的に付加されて表される。以下は、メチェ語の時制接辞を肯定文と否定文との場合に分けた表である。

	肯定	否定
Perfective Past	-a:(-mən)	-i:(-mən)
Imperfective	-ə:	-aʔ
Perfective Future	-nai	

表 1：メチェ語のテンス・アスペクト接辞

母音で始まる接辞は、直前の音と類似した調音点で発音されるつなぎの子音が動詞に接続した場合はある。また、メチェ語のテンス・アスペクトを表す接尾辞の特徴は、他の多くの TB 言語と異なり、否定接辞が存在せず、時制の接辞と融合して表されるという点にある。ここで以下に例文をあげる。

(1) 肯定文

- a. **aŋ mia haʔhai-au thaŋ-a:(-mən).**
 1SG yesterday market-LOC go-PAST(-PAST)
 私は昨日市場へ行った。
- b. **aŋ samphrambə bi haʔhai-au thaŋ-ə.**
 1SG always that market-LOC go-HAB
 私はいつもその市場へ行く。
- c. **aŋ gabən haʔhai-au thaŋ-nai.**
 1SG tomorrow market-LOC go-FUT
 私は明日市場へ行く。

(2) 否定文

- a. **aŋ mia haʔhai-au thaŋ-i:(-mən).**
 1SG yesterday market-LOC go-PAST.NEG (-PAST)
 私は昨日市場へ行かなかった。
- b. **aŋ samphrambə bi haʔhai-au thaŋ- aʔ.**
 1SG always that market-LOC go-IMP.F.NEG
 私はいつもその市場へ行かない。
- c. **aŋ gabən haʔhai-aw thaŋ- aʔ.**
 1SG tomorrow market-LOC go-IMP.F.NEG
 私は明日市場へ行かない。

過去時制は、肯定文の場合-a:、否定文の場合は-i: が用いられるが、過去であることをはっきりさせるために -mən という過去の事象であることを表す接辞を取ることもできる。Habitual は、習慣的行為や普遍的心理を表すのに用いられる。肯定は-ə: で、否定は- aʔで表される。テンス的には無指定であるが、過去を示す-mən を取った場合は過去の習慣を、とらなければ現在の習慣を表す。未来を表すには、肯定では -nai を用いるが、否定の形は、Habitual の否定形と同じである。一つの解釈としては、否定においては Past/Non-Past の対立が反映していると言える。

）他の TB 言語では、否定は独立した接辞として現れることが多く、TB 祖語再構築形では、*ma- をたてることができる。しかし、メチェ語では上に見たように、否定の要素は形態的に独立していない。ところが、命令の否定に関しては、以下の例のように da-という接頭辞が動詞の前につくので、これが唯一の否定に関係する形態素だといえる。

(3) **da-thaŋ.**

NEG.IMP-go
 行くな。

）そのほかのアスペクトを表す要素として継続相を表す -dəŋ、パーフェクトを表す -bai と -kho がある（桐生 2004 参照）。-dəŋ は、日本語のテイル形同様、進行と結果状態の両方を表すことができる。

- (4) a. **nokha ha-dəŋ.**
rain fall-CONT
雨が降っている。
- b. **bi mahai thaŋ-dəŋ ra ?**
3SG where go-CONT Q
彼は、どこに行ってるんだろ。

過去に起こったことが、現在の状態とどのように関係するかを表すパーフェクトの意味を表す表現がある。完了した動作であることを表すには **-bai**、未完了の動作であることを表すには動詞の Perfective Past に **-khə** を接続する。**-khə** は、日本語の「まだ」の意味に対応し、肯定にもつくことができる。

- (5) a. **əŋkham ja-bai ?**
rice eat-PFCT
ご飯食べた？
- b. **əŋkham ja-ya-khə.**
rice eat-NEG-yet
ご飯はまだ食べていない。
- c. **phəisa inchi-inchi doŋ-khə.**
money a.little-a.little exist-still
まだお金が少しある。

-bai は現在パーフェクトの意味であるため、過去を表す **-mən** と共起することはできない。また、**-bai** の否定は、Perfective Past 形に **-khəi** という接辞をつける。

- (6) **mithi-bai na mithi-a-khəi ?**
understand-PFCT or understand-PAST.NEG-PFCT.NEG
分かったのか、それとも分からないのか。

3. Chəi の機能

メチェ語の会話を聞いていると、文末に **-chəi** という言葉が現れることに気が付く。典型的には、話者がその場を離れるようなときに、他の人に向かって以下の A のような発話を行なう。

- (7) A: **thaŋ-nai-chəi.**
go-FUT-CS
じゃあ、行くよ。
- B: **de.**
okay
ああ。

-chəi を省略した発話自体も文法的であるが、この場面では、**-chəi** を省略することはできない。インフォーマントによると、ここでは今すぐにこの場を去るというような場合なので、**-chəi** を省略できないということであるが、意味的には **immediate future** を表しているように思われる。この接辞は、アッサム州のボド語では、**sui** という接辞に対応し、Bhattacharya (1965) では、ボド語の未来を表す接辞に付いた場合、“**terminating suffix to indicate intension or purpose (ibid.:115)**”と説明している。また、未来以外の接辞に付いた場合、

“more assertive”、“emphatic” であると述べている。ボド語ではこの接辞に関する例があまり取り上げられていないが、少なくともメチェ語では、以下の例を見ると、単純に Bhattacharya の言うように結論付けることはできない。

- (8) a. **jəŋ boɔo-ne ja-nai ləŋ-nai-ya isan-chəi**
 we Bodo-GEN eat-NL drink-NL-NOM like.that-CS
 我々ボドが食べたり飲んだりするものは、こんなものですよ。
- b. **jəu ləŋ-nə ha-yəi-chəi.**
 liquor drink-CP able.to-HAB-CS
 お酒を飲むことができるようになった。

これらの例を見ると意図だとか目的だとか言う意味とは無関係であることが分かる。

〕この -chəi という接辞は、基本的にパーフェクトを表す -bai を除いて、動詞のみだけでなく、isan のような副詞的要素にもつくことができる。

〕さらに、以下の例を見ると、強調的といったような言葉では説明が十分ではないことが分かる。

- (9) **grəpməi sa:-nəi, gələi sa:-che bi, aŋ,sa:-nəi thaŋ-nanəi-grəpməi, məndir**
 then CL-two child CL-one 3SG 1SG CL-two go-CONV-then temple
hai bi bəŋdɔŋ hinjau midai hu-wa-chəi.
 toward 3SG Nepali woman god pray-PST-CS
 それから、二人で、子供一人..、その人と私の二人で行って、お寺の方でそのバフンの女性が神様にお祈りをしたんだ。
- midai hu-nanəi aŋ khulum-bai-ya-chəi.**
 god pray-CONV 1SG greet-around-PAST-CS
 神様にお祈りして、挨拶をしたんだ。
- grəpməi bi ari gidiŋ-bai-ya-chəi**
 then 3SG well turn-around-PAST-CS
 それから、その女性は、えーと、ぐるりと歩いてまわったんだ。
- ekdamshə, wəripəri gidiŋ-nanəi phəi-nanəi, ari, nəstha ja-a-chəi.**
 enthusiastically surroundings turn-CONV come-CONV well snack eat-PAST-CS
 熱心に周りを歩いて来て、えーと、軽食を食べたんだ。

この例文は、ダクチンカリというカトマンズ郊外の有名なお寺へ話者が行ったときの話しの一部であるが、すべての発話のあとに、-chəi が付いている。インフォーマントによると、ここで -chəi を省略したとしても、不自然にはならないと述べている。少なくとも、この例を見る限り、強調といったような意味は当てはまらない。

〕本稿では、この -chəi の機能を大きく二つの機能に分ける。一つは 1 次的機能として状況の変化を表す機能、もう一つはディスコースマーカとしての機能である。この接辞の基本的な機能は、陳述している状況が新しく成立したものであるということを示す働きをするものであると考える。さらに、この機能がディスコースマーカとして発達し、未来や過去のことを叙述する際に、聞き手注意をひきつけるような働きをするものであると考える。ディスコースマーカとしての機能は、語りや手順説明といった種類の文体でよく見られる。

以下では、この接辞の機能を細かく見ていくことにする。

3.1 未来接辞 -nai との組み合わせ

未来を表す接辞 -nai は、単純未来、および、主語の意図を表す。

- (10) a. **mala the phəi-nai ?**
 when Q come-FUT
 いつ来るの？
- b. **gaban phəi-nai, aŋ.**
 tomorrow come-FUT 1SG
 明日来ますよ。

単純に未来の出来事についてたずねる場合、-chəi をつけることはできない。このやり取りの答えでは、単純にいつ来るかを述べているに過ぎない。そのような場合、-chəi を付けることはできない。

例文(7)では、未来接辞 -nai に接続した場合、-chəi はある種の immediate future を表すと述べた。(7)の例では、話者がその場を去る直前にこの発話を行なう場合であり、-chəi を省略することはできない。-chəi を省略した場合は、単純に未来の予定を表し、その動作がすぐに実現するという読みは成立しない。

しかし、-nai-chəi という形式が必ずしも immediate future を表すとはいえない例も存在する。次の例では、食事に誘われた人がその申し出を断り、また次の機会にしますと述べている文である。

- (11) **innau hai aŋ ja-nai-chəi.**
 later toward 1SG eat-FUT-CS
 今度食べることにします (i.e., 今度招待してください。)

明らかに、ここの例では immediate future とは言えない。また、この場合、-chəi を省略することはできない。ここでの -chəi の働きは、想定されていたこととは反する状況が成立したということを表していると解釈できる。つまり、招待を申し出た側は、相手が招待を受けてくるということを想定しているが、この発話が表している自体は、その申し出た側の想定とは異なるということを表している。

-chəi の基本的な機能は、この例のように、現在成立している状況や想定されていたこととは違った状況が成立することを知らせる働きがある。(7)の例も同様に考えることができる。この例では、その場を去ろうとする直前までは、その場にいるという状況が成立している。そして、この発話をした時点で、その場にとどまっているという状況が解消され、新たにその場を去るという新しい状況が成立するということを伝達している。

さらに-nai-chəi が immediate future をあらわすのではない例を見てみよう。

- (12) A: **jəu ləŋ-nai ?**
 liquor drink-FUT
 お酒飲みますか。
- B: **əu, ləŋ-nai.**
 yes drink-FUT
 はい、飲みます。

この例では、単純に相手にお酒を飲む意志があるかどうかをたずねており、その答えも、自分の意思を述べているに過ぎないので、このような状況では -chəi を使うことはできない。しかし、友達と一緒にお酒を飲もうと思って待っている二人が、なかなかその友達が来ないことに痺れを切らしているような状況の場合、以下のような会話になる。

- (13) A: **jəu ləŋ-nai?**
 liquor drink-FUT
 お酒飲む？
 B: **əu, ləŋ-nai-chəi.**
 yes drink-FUT
 ああ、飲んじゃおう。

このような文脈では、B の返答は、単に自分がお酒を飲むという意志を答えているのではなく、待つのをやめて飲んでしまおうという新たな状況の成立を示唆している。このような場合、-chəi が義務的である。

3.2 Habitual と共起した場合

〕 Habitual の形と共起した場合、以前とは異なる新しい習慣について陳述する表現となる。つまり、ここでも新たな状況の成立を -chəi が知らせているといえる。

- (14) a. **jəu ləŋ-nə ha-yə:chəi.**
 liquor drink-CP able-HAB-CS
 お酒を飲めるようになった。
 b. **dokhan-au dən-nə:chəi.**
 shop-LOC keep-HAB-CS
 お店に（特定のものを）置くようになった。
 c. **bichər marai thə ja-yə:chəi.**
 3PL how Q eat-HAB-CS
 彼らは（最近）はどうやって暮らしているんだろう。

(14a)では、話者が以前はお酒を飲めなかったが、現在はお酒を飲めるようになっているとすることを表す。-chəi がない場合は、単にお酒が飲めるという事実を述べているに過ぎない。(14b)は、前提としてある特定の品物を店に置いていなかった、ということがあり、最近、以前は置かなかったものを置くようになったとすることを表す。(14c)は、-chəi がなければ、主語がどのように暮らしているのかを単にたずねる文でしかない。しかし、-chəi が付いた場合、現在の状況が以前の状況と異なっており、現在はどのように暮らすようになったのかについてたずねている。例えば、以前は仕事をしていたが、現在は失業してしまったという新たな状況が成立している場合である。どの例も、以前とは異なった新たな状況が成立したという文脈で、以前とは異なる習慣的な状況が成立していることを表している。

3.3 テンス・アスペクト接辞が付かないものと共起した場合

〕 メチェ語では、述語になれる要素のいくつかはテンス・アスペクト接辞を必要としないものがある。

- (15) a. **behai doŋ.³**
 here exist
 ここにある。
 b. **jəŋ boŋo-ne ja-nai ləŋ-nai-ya isan.**
 we Bodo-GEN eat-NL drink-NL-NOM like.this
 私たちボドの食べるものや飲むものはこのようなものです。

- c. **bi doktor.**
 3SG doctor
 彼は医者だ。

存在動詞の *doŋ* は、現在時点での存在を表すのにテンス・アスペクト接辞を必要としない。また、メチェ語では肯定文のコピュラは存在しないので、(15b,c)の例のようにコピュラの無い文になる。

〕(15)の例文は、単純に何かの状況を叙述しているだけであるが、これらの文に *-chəi* を付加すると、各文で表されている事態が期待していたこととは異なっていることを表したり、以前とは異なった状況であることを伝達する。

- (16) a. **behai doŋ-chəi.**
 here exist
 ここにあるよ。
- b. **jəŋ boɖo-ne ja-nai ləŋ-nai-ya isan-chəi.**
 we Bodo-GEN eat-NL drink-NL-NOM like.this
 私たちボドの食べるものや飲むものはこのようなものですよ。
- c. **bi doktor-chəi.**
 3SG doctor
 (今や)彼は医者だ。

(16a)は、含意として、文脈上の指示物が以前はここにはなかったということを示唆している。また、(16b)は、聞き手の期待に反してボド（メチェ）の人々の飲食するものはこんなものだ、というニュアンスがある。また、(16c)は、彼が現在医者であるということを表すと同時に、以前は医者ではなかったということをニュアンスとして含意する。

〕(16b)の場合は、いわゆる聞き手の期待に反することの提示、という意味で(11)の例とも類似する。期待とは異なることを表す場合にもこの *-chəi* を使うことができることになるが、この場合の解釈は、新たな状況の成立を提示する機能と根源は同じであるといえる。〕

ここで「スナップショット」という概念を導入して考察してみることにする。ただし、*-chəi* の持つ機能を例示的に説明するための手段であり、なんら理論的な根拠はないことを断っておく。

さて、一つのスナップショットには、ある言語表現が描写している事柄がイメージ的に表されているものだとする。そうすると、*-chəi* の付かない文が生起するスナップショットは一つである。しかし、状況の変化があったということを表すには、以前の状況と新しい状況との比較の上に成り立つことになるので、以前の状況と新しい状況とを表すスナップショットの両方が必要となる。言語表現がスナップショット A に対応する場合、*-chəi* は、このスナップショット A とは状況が異なるスナップショット B の存在を含意する機能を持つものだといえる。

スナップショット B が現実にある事態を格納している場合、時間的に $A \Rightarrow B$ という関係が成り立ち、B が時間的に新しく成立した事態であることを *-chəi* が示す。それに対して、スナップショット B が現実の事態ではなく、話者の想定などを表す場合、事実として提示されているスナップショット A の存在から、スナップショット B が期待通りに実現しなかったということが導かれる。

〕*-chəi* のもつ二つの機能について、以下の節で別の例を挙げて検討してみる。

3.4 継続を表す *dəŋ* と共起した場合

〕*dəŋ* は、第2節で見たように、動作の進行や結果状態を表すアスペクトマーカである。このマーカは、存在動詞 *doŋ* から文法化したものだといえる。

- (17) **nokha ha-dəŋ.**
rain fall-CONT
雨が降っている。

この継続相を表す **dəŋ** に **-chəi** がついた場合、発話時点から見て直前に起こった状況の変化を表す。日本語に訳せば「～し始めた」という意味になる。

- (18) **nokha ha-dəŋ-chəi.**
rain fall-CONT-CS
雨が降り始めた。

さらに、次の例を見てみよう。この例では「～し始めた」という意味にはならない。

- (19) **bi phəi-dəŋ-chəi.**
3SG come-CONT-CS
彼はすぐに来る。

ここでは、開始という意味ではなく、ある種の **immediate future** を表している。彼が来つつあるという状況がすでに成立しているのだ、ということを表す。**-chəi** が付かなければ、単に「来ている途中だ」という進行の意味か「(すでに)来ている」という結果状態の意味を表すが、研究者が確認した範囲では、**-chəi** が付くともうすぐ来る、という意味に解釈される。

〕(18)(19)いずれの場合も、新たな状況が成立したということを**-chəi** が表しているといえるのだが、**-chəi** が未来形について **immediate future** を表す(7)の例の場合と同様、いずれも状況の変化が発話時から見て直前直後であるということを表しているという点で 3 つの文は共通点が見られる。

3.5 否定命令文に付いた場合

〕筆者の集めたデータ中に **-chəi** が否定命令文に付く場合の例が二つ見つかる。

- (20) a. **nokha ha-dəŋ-chəi. da-thəŋ-chəi.**
rain fall-CONT-CS NEG.IMP-go-CS
雨が降ってきた。もう行くな。
b. **da-khat-chəi.**
NEG.IMP-run.away-CS
もう逃げるなよ。

否定命令文の場合も、これまでと同様、状況の変化を**-chəi** が表しているということが言える。**-chəi** の付かない否定命令文は、単純にその動詞が表す行為を禁止しているに過ぎないが、(20)の例のように **-chəi** の付く否定命令文では、新しい状況としてその行為を禁止するという意味がある。つまり、(20a)では、雨が降る以前は、どこかへ「行く」ということが想定されていたが、雨が降ってきたことにより、状況が変わったので行く行為を禁じる、という解釈である。日本語では「もう」という表現でこの状況の変化が示されている。また、(20b)では、これまでに何度も逃げようとしていたという前提が必要となり、これ以上逃げるな、という禁止の意味を表しており、逃げたという過去の出来事とは異なる「逃げない」という新しい状況を守るように相手に命じている。どちらの場合も、前提とされている事態を表すスナップショットとは異なる新たな状況を表すスナップショットが新しい状況として成立するということを **-chəi** が表している。

3.6 否定表現と共起した場合

第2節で述べたように、メチェ語では否定はテンス・アスペクト接辞と融合した形で表される。否定命令の場合を除いて、これまで見てきた例はすべて肯定文であった。**-chəi** は現在パーフェクト肯定を表す **-bai** に付くことはないが、動詞の過去形に **-khə-chəi** という形で現れることができ、パーフェクトの否定を表す。形態的な分析がまだ十分に現時点ではできていないが、第2節で見たように単純なパーフェクトの否定は、**-khəi** という形で表され、また、「まだ～ない」という未完了は、**-kho** という形式で表されるが、**-khə-chəi**、**-khəi**、**-kho** の三つの形式は、形態的に何らかの関連がありそうである。これらの否定接辞を含む例を以下に例で示し、その機能をまとめると(22)のようになる。

- (21) a. **əŋkham ja-ya kho.**
 rice eat-PAST not.yet
 ご飯をまだ食べていない。
- b. **əŋkham ja-ya khəi.**
 rice eat-PAST NEG.PAST
 ご飯を食べなかった。食べていない。
- c. **əŋkham ja-ya khə-chəi.**
 rice eat-PAST NEG.PAST.CS
 ご飯を食べなかった。食べていない。
- (22) ・ **-kho** は、述語が表す事態が発話時点においてまだ実現していないことを表し、将来的にその事態が実現する可能性があることを含意する。
- ・ **-khəi** は、過去において述語が表す出来事が発生しなかったことを表し、その出来事が現在の発話の文脈に関連性があることを表す。
- ・ **-khə-chəi** は、過去において述語が表す事態が実現しなかったことを表すが、その事態が起こることが期待されていたものの実現しなかったという含意、あるいは、過去にその事態が実現しなかっただけでなく、将来においても実現する可能性がないということを含意する。

(22)で示したような含意が **-khə-chəi** にあるため、以下のような場合は、使用することができない。

- (23) **bi bərai-ya kho/khəi/*khə-chəi.**
 3SG old-PAST not.yet/NEG.PAST/NEG.PAST.CS
 彼は年を取っていない。

-khə-chəi を用いると、実際に老化せず、今後も老化しない、という現実にはあり得ない意味になってしまうので不適格である。**-kho** の場合は、まだ年をとっていない、つまり、若い、ということ表すが、**-khəi** の場合は、実年齢では年をとっているが、見た目上や体力的に年寄りに見えない、という意味になる。

次の例を見てみよう。次の例は、筆者がインフォーマントに Windows の CD が手に入ったかをたずねたときにインフォーマントが答えた例である。

- (24) A: **Window's CD mən-bai ?**
 Window's CD get-PFCT
 Windows の CD は手に入った？
 B: **mən-na khəi.**
 get-PAST NEG.PAST.CS
 まだ手に入っていない。

この発話の文脈は、インフォーマントは、Windows CD を売っているだろうと思うお店に行ってみたが、手に入れることができなかった、という状況である。つまり、話し手は、これまでのことを話しているだけであり、将来見つかるかどうかまでは言及していないが、少なくとも、まだ探すのをやめたということは含意しない。

ここで **-kho** を用いれば、「まだ手に入っていない(が手に入る可能性がある)。」ということを表し、将来の可能性に含みを持たせている点で **-khəi** とは同じ未完了を表すものの役割が異なる。また、**-khə-chəi** を用いた場合、探したけれど結局見つからず、今後も見つかる可能性がないという否定的な状況が成立しているという認識を表すことになる。よって、**-khə-chəi** を用いる場合は、あらゆるお店を探したけれども見つからなかったという文脈でなければならない。インフォーマントの発話の場合は、まだ探す意志があったので、**-khə-chəi** を用いてはいないのである。

〕 **-khə-chəi** は、期待に反した状況が成立した、ということを表すこともできる。

- (25) **bar bar-niŋ-guniŋ aŋ nəŋthaŋ-phəŋ-khou hagra gidŋ-nə laŋ-nə**
 wind blow-EMP-because 1SG 2SG.HON-PL-ACC jungle walk-CP take-CP
ha-ya khə-chəi.
 able-PAST NEG.PAST.CS
 風がとても吹いたので、私はあなたたちを森へ散歩しに連れて行くことができなかった。

ここでは、「結局～なかった」という述べていることが期待に反したものだだったということを述べている。このような状況では、**-khəi** は適当ではない。

4. ディスコースマーカースとしての機能

〕これまで見てきた **-chəi** の用法は、ある種アスペクト的な意味を表す用法であった。この接辞には、状況の変化を表すのではない用法も存在している。二番目の用法は、特定のジャンルのテキストに連続して現れるもので、それ自体文が陳述している命題内容になんら意味的な変更を加えることはないが、ある種のディスコース上の効果を体現する。ここで言うディスコース上の機能は、語りや手順説明において話し手が聞き手の注意をひきつけたいような情報を提供するときに現れる。これにより、相手の関心を話の中へと引き込み、話し手との一体感を高める働きがあるといえる。

〕この用法の **-chəi** はどのタイプのディスコースにも現れるわけではなく、語りおよび手順説明のディスコースにおいて現れる。語りの中で **-chəi** が現れることができるのは、順番に起こった出来事を連続して語る場合で、全体をまとめるような文には **-chəi** は付かない。

- (26) a. **dachinkhali-yau**
Dakshinkali-LOC
ダクチンカリにね
- b. **məndir-yau** **thaŋ-ga.**
temple-LOC go-PAST
お寺に行った。
- c. **məndir-yau** **gidin-bai-ya-chəi.**⁴
temple-LOC turn-around-PAST-CS
お寺の周りを見てまわったんだ。
- d. **dacchinkhali hai thaŋ-nanəi bəndəŋ hinjau-jəŋ thaŋ-ga.**
Dakshinkali toward go-CONV Nepali woman-with go-PAST
ダクチンカリの方へネパール人の女の人と一緒にいった。
- e. **grəpməi sa:-nəi, gələi sa:-che, bi, aŋ, sa:-nəi thaŋ-nanəi-grəpməi,**
then CL-two child CL-one 3SG 1SG CL-two go-CONV-then
məndir hai bi bəndəŋ hinjau midai hu-wa-chəi.
temple toward 3SG Nepali woman god pray-PAST-CS
それから、二人、子供一人に、その人と私の二人で行ってから、お寺の方でそのネパール人の女の人が神様にお祈りをしたんだ。
- f. **midai hu-nanəi aŋ khulum-bai-ya -chəi.**
god pray-CONV 1SG greet-around-PAST CS
神様にお祈りをして、(いろんな人に)挨拶して回ったんだ。
- g. **grəpməi bi, ari, gidin-bai-ya -chəi.**
then 3SG well turn-around-PAST CS
それから彼女は、えーと、見てまわったね。

この語りは、話者がカトマンズ郊外にある有名なダクチンカリ寺院へ、ネパール人の知り合いの女性と一緒にいったときのことを話してもらったものである。語りはトピックを表す発話(26a,b)で始まり、これが話し全体を総括している。この文には、-chəi は付いていない。続く発話(26c)は、ダクチンカリ寺院に行ってから話者が何をしたのか、つまり、お寺を見てまわったということを述べている。時間的な流れから言えば、この発話が表す事態は、先行する発話であるダクチンカリに着いたあとの事態を表しており、-chəi が新たな事態の展開を表している。(26d)は、-chəi が付いていないが、これは、先行する発話に続く事態を現しているのではなく、再度ダクチンカリへ誰と行ったかという情報を付加しており、時間的に連続する出来事を表しているのではないため -chəi が付かない。そして、(26e)以降はすべての発話に-chəi がついているが、すべて行なったことを順番に述べている。

このような -chəi の使い方は、民話の語りの中でも良く使われる。しかし、たとえ順序立てて出来事を述べている場合であっても、必ずしも -chəi が付く場合ばかりではない。話の展開の中で、いわゆる話の盛り上がる場面で何が起こっているのかを連続して述べる場合に限定されるようである。例えば、「サルの勇気」という物語では、初めの背景説明の場面では -chəi が現れないが、物語の展開に重要な出来事が語られる場面では、-chəi が頻繁に連続して使用される。このように、新しい事態が次々と展開していく場面において -chəi を用いることで、聞き手を語りの中へ引き込むというディスコース上の機能があると言える。

この(26)の例において、-chəi を一切使わずに語ることも可能であるが、インフォーマントによると、-chəi が付くことで、より説明的な感じがすると言っていることから、-chəi が話者の関心をひきつけるような働きをしていると推察することができる。

）もう一つのディスコースマーカ―としての機能は、語りの場合と非常に良く似ているが、何かの手順を説明するときに使われる *-chəi* である。この手順説明というディスコースにおいては、行なわれることが時系列的に整理されて語られる。以下の例は、新婦へ結婚の申し込みをする経過を述べているものである。

- (27) a. **airathi-birathi la-nanəi banbiban la-nan phəi-nai-chəi da.**
 bridgeroom.followers take-CONV betrothal.gift take-CONV come-FUT-CS PART
 新婦の従者が持って行って、結納の品を持って来るんだよ。
- b. **phəi-nan bi dohoi buŋ-ne-lai githau-mathau kho**
 come-CONV 3SG earlier say-DAT-DIR beetle.nut-REDUP bamboo.basket
mama la-nan bichər phəi-nai-chəi.
 what take-CONV 3PL come-FUT-CS
 やってきて、彼は早い段階で（結婚の申し出を）言うためにビンロウなどや竹のかごか何かを持って、彼らはやってくる。
- c. **phəi-nanəi, ba:cha, baŋhəu-wau dən-phəi-nai-chəi.**
 come-CONV well sacred.cactus-LOC put-come-FUT-CS
 やってきて、ね、バトウ（神として祭っているサボテン）のところに置きに来る。
- d. **dən-phəi-nanəi, ba:cha-arki, grim-jirai-nai-chəi.**
 put-come-CONV well-then together-sit-FUT-CS
 置きに来てから、それでね、一緒に座るんだ。
- e. **thən-nai-chəi, “de:, khu-əi də, nəŋchər.”**
 request-FUT-CS OK, open-go please 2PL
 で、頼むんだ「さあ、あなた方、開けに行ってください。」
- f. **kheu-nai-chəi.**
 open-FUT-CS
 で、開ける。
- g. **dən-nai-chəi.**
 put-FUT-CS
 で、置く。
- h. **dən-nanəi hai, ba:cha-arki, raijlai-nai-chəi.**
 put-CONV then well-then talk-FUT-CS
 で、置いてからね、えーと、おしゃべりをするんだ。
- i. **raijlai-phramai, ba:cha-ariki, bas.**
 talk-after well-then accommodation
 おしゃべりをした後で、えーと、（そこに一晚）泊まる。
- j. **sim-nai-chəi, arki, ma-ma bi-yə.**
 agree-FUT-CS well what-what demand-HAB
 で、取り決めるんだ、つまり、（そこでは）何を要求するのかを。

この婚約にいたるまでの過程を説明した話は約 10 分間のものであるが、どのようなことが起こるかを述べているところすべてに *-chəi* が現れているわけではない。*-chəi* が現れているところを見ると、手順として重要な部分であり、上に挙げた例は、新郎側の申し出を新婦の側が受け入れるかどうかの重要な部分である。よって、聞き手には特に注意を払って聞いてほしいところであり、*-chəi* の働きは、順番に事態がどう展開していくのかを示すという機能だけでなく、聞き手の注意を話にひきつけるというディスコース上の機能を果た

していると言える。日本語の訳では、ちょうど「で、」と文頭に現れる表現に対応すると思われる。

5. 結論

本論では、メチェ語の接辞 -chai の機能について論じてきた。この接辞の機能は、1 次的には、これまでの状況とは異なる新たな状況の成立を示したり、期待されていたこととはことなる状況が成立したことを示すことにある。新たな状況が成立するということから、ディスコース上、語りや手順説明において、次々と事態が展開することを表示するディスコースマーカースとして機能することを見た。その場合、-chai が付いている発話を見ると、話の中で重要な部分となる事態の展開を語るときに使われるということを見た。-chai はこのような場合、聞き手の注意を重要な話の展開にひきつける働きをしているとも言える。

記号一覧

ACC - accusative, CL - classifier, CONT - continuous, CONV - converb, CS - change of situation, EMP - emphatic, FUT - future, HAB - habitual, HON - honorific, IMP - imperative, LOC - locative, NEG - negative marker, PAST - past, PFCT - perfect, PL - plural, Q - question, SG - singular

注

* 本論文に関するメチェ語の研究は、著者が受けている文部科学省科学研究費補助金・若手研究(B)「メチェ語の記述保存と文法・語法研究」課題番号 17720093 の補助を受けて作成されたものである。また、本論文は The 39th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics, The University of Washington, 2006 で発表した Analysis of a verbal suffix -chai に加筆修正を加えたものである。メチェ語の協力者である Santa Lal Meche 氏とその家族、親族の方に謝辞を述べたいと思う。

1) メチェという呼称の起源については、Narjinari (1985)で論じられている。

2) 西ベンガルのボド語についての資料は Hodgson (1880)で簡単な語彙などの記録があるのみで、アッサム州のボド語と比べるとほとんど研究がなされていない状況にある。

3) この動詞は、通常テンス・アスペクト接辞を取らないが、Habitual の場合に -ga: と接辞を取ることができる。

参考文献

- Bhattacharya, P. 1965 *Descriptive Analysis of the Bodo Language*. Ph.D. thesis, Gauhati University, India.
- Hodgson, B. H. 1880 *Miscellaneous Essays Relating to Indian Subjects*, reprinted from Asian Educational Services, New Delhi.
- Kiryu, K. 2006 'An analysis of a verbal suffix -chai in Meche', 39th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 口頭発表, The University of Washington.
- Narjinari, H. C. 1985 *In Search of Identity of the Mech.*
- 桐生和幸 2004 「メチェ語調査ノート」『美作大学・美作大学短期大学部紀要』49: 31-39.

